

南ユタ短期留学

函館校 地域教育一年 佐藤秋杜

私は8月27日から9月27日の一か月間、大学の夏休みを利用してアメリカの南ユタ州にあるシダシティという町にホームステイをしながら南ユタ大学に通いました。(south Utah university *略称で SUU)

大学の授業形態は各分校から来た日本人6人と現地のアメリカ人の先生から教わるというもので、基本的に授業中はすべて英語でおこなわれ、主に経済について学習しました。一日の授業は am 9 : 00 ~ pm 15 : 00 で一時間程度お昼休みがありました。また、毎週金曜日にはアクティビティとしてシダシティの様々な有名どこに、アメリカの文化学習として先生たちが連れて行ってくれました。最終的には、対 SUU の学生に向けて10分間のプレゼンテーションと学んだことを踏まえて経済についてのエッセーを自分自身の力で手掛けることで英語の力が付いたかどうかを確認しました。最初の一週間はまだ英語に対して自分自身の耳が慣れず、正直言ってストレスを感じていました。しかし、一週間を過ぎたあたりからだんだんと耳が慣れていき、あとは単語の意味や言い回しさえ判りさえすれば、とりあえずは相手が何を言っているのか理解できるようになりました。先生は現地の人で、ローラという女性のとても私たちに気を使ってくれるやさしい先生でした。ときには私たちに気をつかいすぎて、SUUの職員と衝突するという場面もあるほどでした。とくに感動したことがあり、当初の予定では、アメリカ滞在の最後の日、アメリカ時間で9月27日は通常通り、授業が行われる予定でした。しかし、ある時、私たちが不意に「ラスベガスにいったらいい」といったところローラは「どうにかしてあげたい」といって最終日に行けるよう SUU の職員におちあってくれました。ちょうどアメリカから出る飛行機がラスベガスにあるマッカラン国際空港だったのでその点では問題はなかったのですが、当初の予定と異なった為、ラスベガスまでの車で3時間ほどかかる距離の「あし」がありませんでした。なので、私たち6人はほとんどあきらめかけていました。しかし、ローラが「それなら私が送って行ってあげる」といってくれたのです。そうして、私たちは最終日にラスベガスを一日楽しむことができ、私たちがアメリカを後にする最後の最後までローラとともにいることが出来ました。最後の別れのときは、私自身あまり人前で涙を流す人間ではないのですが、そのときには思わず涙を流してしまいながらローラに「あなたのような先生になれるように頑張る」といいました。ローラはとてもよろこんでくれました。たった一か月の間でこんなにも愛着がわく先生に出会えたことはとても素晴らしいことだと感じています。

優しかったのは、先生だけではありません。自分がお世話になったホームステイ先も感謝もしきれないくらいお世話になりました。私がお世話になったのはバード家という5人の子供たちがいるとてもとても幸せな家族でした。15:00に大学の講義が終わると私は毎日バード家の子供たちと遊んでいました。庭は日本のものとは比べ物にならないくらい大きく、子供たちはそこにあるトランポリンが大のお気に入りでした。また、私は

高校時代サッカーをやっていたのですが、ちょうど子供たちは全員サッカーをやっていて、よくともにサッカーボールを蹴りました。ときには、子供たちのサッカーの試合も見に行きました。子供たちはみんなかわいらしくて当初、全く言葉が通じなかった私に対していやな顔を一度として見せることなく接してくれました。今でも会いたいなと、ふと思いません。また、他にホームステイ先で特に印象に残ったことは、彼らがモルモン教という宗教を持っていたことです。「宗教」というとたいていの日本人は嫌悪感を抱くかもしれませんが。実際、アメリカに渡る前の私も同じような感情をいただいていた。しかし、実際に触れてみたらそのような感情はあとかたも消えました。むしろ、モルモン教いいなと思うほどです。それは、モルモン教が家族の絆を強くしていると強く感じたからです。宗教の決まりで例えば、金曜日の夜には必ず家族ミーティングがありました。家族ミーティングではお祈りや家族が交代でキリストの教えを説いたりしていました。とくに感動したのが歌です。家族全員でうたう、それはとても大きな力を感じました。日本でこのような光景がみられるでしょうか。私は見られないと思います。このことを通じて、私は先入観だけで物事を判断してはならないことを学びました。

この一か月の旅はなににも変えうることのできない素晴らしいものでした。最終日には本当にこのまま永住したいなと思っていました。日本に帰ってきてもバード家の人々やローラ達が忘れられません。彼らとも英語がもっと話せればもっと感謝できたのに、もっと感動的な別れ方が出来たのにといい思いでいっぱいになり、日本に帰ってから英語の上達に関する意識の持ちようが大きく変化しました。自分は国際分野の人たちと違い最初は海外の経験をしときたいなという軽い気持ちでしたが、もっともっと「生きた」英語を学習して、在学中にまた海外にいきたいなとおもっています。このプログラムは初心者にも上級者にもおすすめ出来るプログラムになっています。とりあえず、英語が話せないから躊躇しているのは愚かなことです。行ってみないとあなたの将来は変わらないとおもいます。私はこの年になってもこんなにも成長できること。こんなにもやるべき事があったのだと学びました。ほかの人にもこのようなひとりひとりにとって夢のような時間をすごしてほしい。私はこのプログラムを声を大にしてお勧めします。

バード家の子供たち
(母親のおなかの中には6人目の女の子)



SUUの卒業証書授与
(写真左がローラ先生)



グランドキャニオンにて



ラスベガスにて

